

繊維系三学会統合とビジョン・ミッションの策定

繊維系三学会（繊維学会、日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会）では、現状認識に基づいた議論の中で、人類の生存に不可欠な衣食住、地球環境を支える繊維及び関連した学問領域の研究者・技術者には、時代や環境の変化に対応していくために新たな価値、イノベーションを持続的に創出していく責務があることを確認した。その実現のためには、我が国の繊維及び関連する業界を学理の面からリードし、国際的にも高いポジションを占める学術団体を構築していくことが、世紀を跨ぐマクロな視点に立った場合の総意であり、その方法論として繊維系三学会が一法人化して新たな学会を創生し、それぞれがこれまでに培ってきた叡智の結集と伝承を確実に実行し、方向性を一つにして未来に向かっていくことに大きな価値があるとの結論に至った。従来の枠組みを超え多様性を獲得した新学会は、世界に向けた価値提案、社会的問題解決、及び他分野と連携した新学術分野の創成に向けて会員が国際的に活動する場として機能し、その存在価値を明確に発信することで人々を惹きつけ、次の時代を担う人材を持続的に育成することが可能と信じる。

一つとなった新学会（日本繊維学会）の目的は、繊維に関連するあらゆる学理とその応用の進歩普及をはかり、学術、文化及び産業の発展を通して、豊かな社会の実現に寄与することである。その達成のためには、中長期的な展望を基礎として、取り巻く環境や社会ニーズの変化に順応し進化していくことが重要であることから、2030 年を見据え、新学会のあるべき姿（ビジョン）とそれを見据えた行動目標（ミッション）を整え、会員に示すことにした。

さらに具体的なアクションプランに関しては、近日中に報告する。

日本繊維学会 ビジョン・ミッション

繊維関係者の叡智を結集しさらなる学理の探求と
繊維を軸とした学術・文化・産業のイノベーション促進により
未来社会を見据えた価値創造を強力に推進
～繊維の叡智を結集し、未来社会を見据えた新たなフェーズへ～

1. ビジョン：

- ・繊維及び繊維関連の研究者・技術者が集結する場であり、相互尊重と相互啓発しながらその叡智を結集し、他分野とも連携しながらさらなる学理を探求する。
- ・繊維を軸として、多様なステークホルダーを巻き込んで学術・文化・産業のイノベーション促進により未来社会を見据えた価値創造を強力に推進することで、日本の繊維産業を支え牽引する。
- ・世界に向けた価値提案、社会的問題解決、及び他分野と連携した新学術分野の創生に向けて会員が国際的に活動する場として機能し、その存在価値を明確に発信する。
- ・知の継承と繊維関連教育への積極的なコミットにより、次の時代を担う人材を持続的に育成する。
- ・学理の探求から社会実装し、社会実装から新たな課題を抽出し、さらなる学理探求へ循環させる仕組みとする。

より激しくなった社会変化に対応できる強靱でしなやかな学会運営を可能とし、グローバルな情報発信、情報収集を進めることで、繊維および関連産業のオピニオンリーダーとしての役割を果たし、次世代の会員が活躍できる場を目指す。学理の探求を基軸に、ニューノーマルに適応し魅力ある新たな価値創造を発信する場としての「繊維イノベーションエコシステム※」の実現を目指す。

2. ミッション：

- ・研究発表の機会と議論・交流の場を提供
広範な領域の研究者・技術者が集う日本繊維学会では、研究発表、情報発信と交換、知の伝承という従来の役割を果たしつつ、face-to-face で人と人をつなげ、1 人や 1 分野だけではできない（この学会でしかできない）価値創造や問題解決を可能とする場を提供する。
- ・重点分野を策定し、課題解決に向けた体制作り
従来の枠組み（川上・川中・川下、産学官）を超え、社会への価値提案（あるいは社会的問題解決）・新学術分野創生に向けて会員が活動する場として機能する。
- ・次世代を担う若手育成のスキームの確立
学会誌等により時代に対応した情報提供と知の伝承を図り、繊維科学技術の魅力と実力、そして学会の存在価値を明確に発信して人を惹きつけ、次の時代を担う人材を育成する。
- ・論文誌の充実
Journal of Fiber Science and Technology (JFST)は、国内外で活躍する研究者の投稿を促し、繊維系トップジャーナルを目指すとともに、和文中心の 2 誌目の論文誌を刊行し、多様な投稿機会を提供する。
- ・2030 年に向け行動目標を明確にする
繊維分野ならびに繊維を軸とした融合分野における研究・技術開発や関連事業における重点項目を定め、持続可能な開発目標(SDGs)に対応させ、学会活動を通じた SDGs 達成を目指す。

※繊維イノベーションエコシステム

イノベーションエコシステムとは、行政、大学、研究機関、学会、企業、金融機関などの様々な組織や個人が相互に関与し共栄を図りつつ、絶え間なくイノベーションが創出される生態系システムのような環境・状態をいう。

以下の4フェーズをスパイラルアップしながら、イノベーション促進に資する知・人材・モノ・情報等の好循環を目指す。

- ① 学術の進歩発展 : 繊維に関連する種々の課題解決のための学理を探究する。
- ② 産業の発展 : 産学官コミュニティの連携による研究・技術開発事業等を推進する。
- ③ 社会への貢献 : 得られた成果から多様な社会実装を実現する。
- ④ ニーズの発掘 : ニーズ・課題を発掘する仕組みを構築する。

